



限りある貴重な資源

毎日の生活と生産活動を支える地下水

私たちの生活に欠かすことのできない水。

この水は、すべて地下から汲みあげられています。

炊事・洗たく・入浴などの生活用水はもちろん、工業用水・農業用水なども……。

富士山からの豊富な地下水は、私たちのまちを「工業都市」として発展させました。

このように「地下水」は、私たちの生活から切り離すことはできません。

8月1日から7日までは「水の週間」です。

これを機会に「地下水」について考えてみましょう。

地下水に海水が…

現在、市内での地下水汲みあげ量は、1日平均で上水道が8万5,600立方メートル、工業用水が104万2,000立方メートルです。

このうち、上水道については100％、工業用水については70％を地下水に頼っています。

市内の地下水は、通産省が昭和40年に実施した「地下水利用適正調査」によると、富士山水系(浅層・深層)、愛鷹山水系、富士川水系、潤井川水系の4つに分けられます。

各水系の地下水量は、右図のとおりです。

これらの水系による地下水の量は、

1日になんと127万5,000立方メートル。

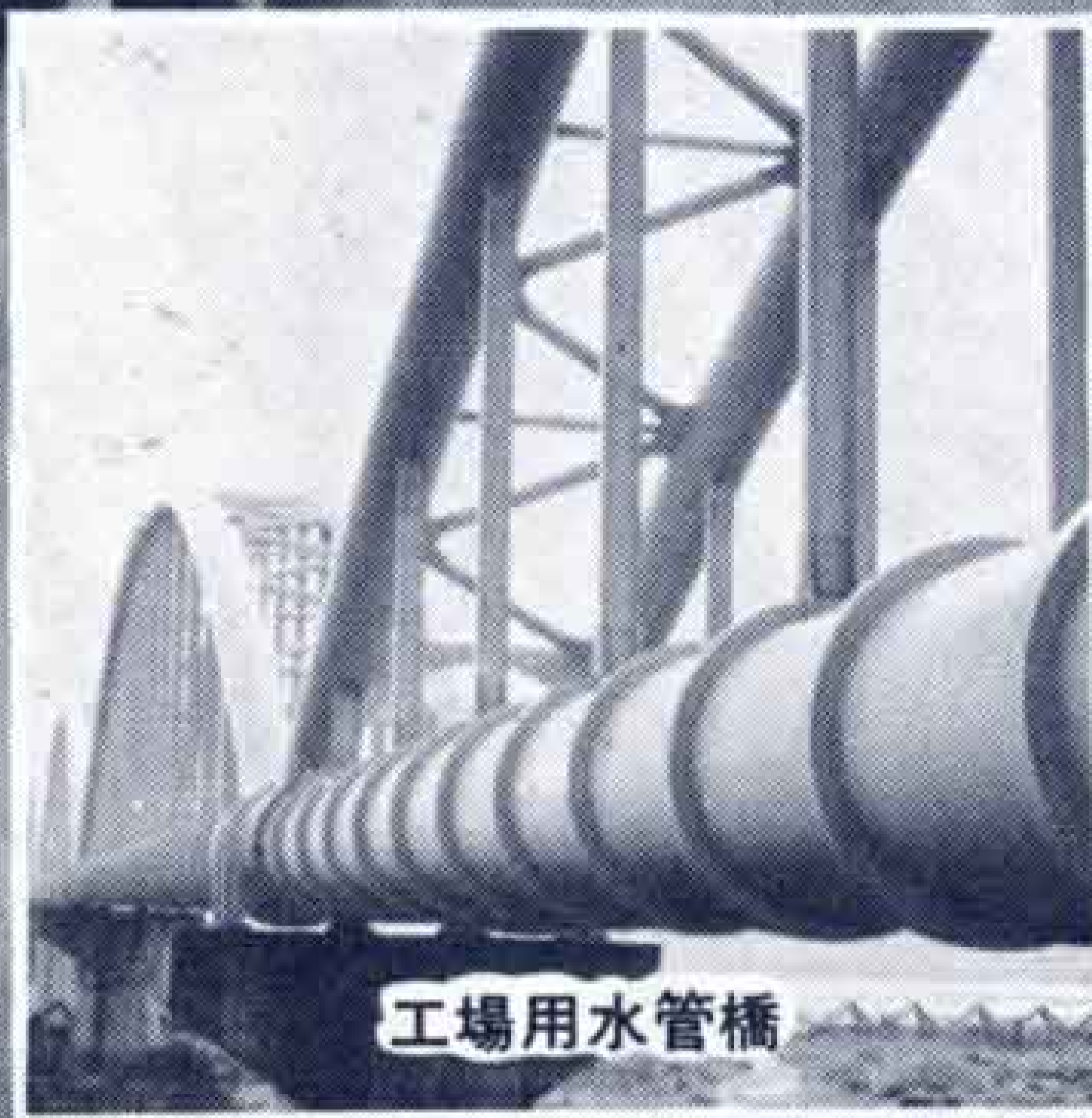
そして、この位なら汲みあげても安全だろうと思われる「安全揚水量」は、1日80万立方メートルとされています。

しかし、昭和30年後半からの高度経済成長に伴う工業の発展、都市化の進展は、ますます地下水の汲みあげを増大させました。

そのため、地下水の水圧が低下し海

市内の地下水系

地下水系	流動量 ^{万m^3}	安全揚水量 ^{万m^3}
富士川左岸	195,000-	136,000-
潤井川	121,000-	85,000-
北部富士山体I	735,000-	514,000-
愛鷹山体	92,000-	64,000-
富士山体II	132,000-	91,000-



工場用水管橋



勢子辻少年自然の家

旧 勢子辻分校が研修施設に

青少年の野外活動など

今年の3月に廃校となった勢子辻分校が、青少年の宿泊施設として利用できるようになりました。

名前も富士市立勢子辻青少年の家と変わりました。

勢子辻青少年の家は、愛鷹山のふもと、標高700メートルに位置し、自然環境に恵まれているので、研修や野外活

動にもってこいです。

宿泊人員は、50人から60人位です。

使用料は、市内の青少年が1泊20円、大人が80円です。

食事は、自炊になります。

申込み先は、市立少年自然の家です。 ☎35-1697